



ほかほかだより

2023年5月24日

5月22日(月)各学年でほかほかタイムをしました。

ほかほかタイムでは、自分自身のことを大切にすると共に、自分のことだけではなく、周りの友だちにも目を向け、相手の気持ちに気付いたり考えたりすることができるようになってほしいと願い、取り組んでいます。



初めての集団生活にもすっかり慣れて、3歳児クラスの子どもたちも友だち関係が広がってきています。

仲良くなってくると主張も強く出てきます。

普段もタイムリーに子どもたちのあそびの様子を職員劇にして、『人とのかわり方』や、『友だちの思いに寄り添うということ』を考え合って、友だち関係を深めています。今回の様子をほかほかだよりで紹介します。

3歳児

「かして」「どうぞ」「ありがとう」って気持ちのいい言葉だね。

みんな大好きな汽車セット。みーちゃん(村岡T)も楽しそうに遊んでいます。

まーちゃん(大家T)も遊びたくって・・・
横からとってしまいました。

取られたみーちゃんは、泣いています。

「あらあら、どうしましょう」と子どもたちに尋ねると子どもたちは、すぐに反応をして、

すーっと寄ってきて、1つ汽車をまーちゃんに貸してあげました。

また、泣いているみーちゃんに、「どうぞ」と言って貸してあげる子もいましたよ。

「かしてってゆい(言い)」とまーちゃんに教えてくれました。

子どもたちとモデル劇をやってみました。

「かして」「どうぞ」「ありがとう」

今遊び始めたばかりの時は、「あとでかわってあげる」というモデルに、中尾先生が「タイムタイマーで交代の時間を決めましょう」と音で知らせる方法を提案してくれました。



ありがとうっていっ

いいよ

かして



4歳児

レゴブロックでおうち窓をつけたり、人形をくっつけたりして遊んでいるまーちゃん。ちょっとその場を離れた時、「うわぁーじょうずやなぁ」と、見に来たみーちゃん。そこへ戻ってきたまーちゃんが、「わたしの!!」と怒ってみーちゃんを押し倒しました。4歳児は、怒ったまーちゃんの気持ちに寄り添い、考えてみました。

子どもたちは、次々と……

「まーちゃん、こわされるとおもったのかな」

「わたしは、(こわされへんかなぁとおもって)ドキドキする」

「おしたら、きらいっていう」

「みーちゃんはみてただけやで」

「みてもだめやから(おしたんちがう?)」



しばらくすると、肯定的な意見が出始めました。

「みていいよって、いったらいい」

「いっしょにつくろうよって、いったらいい」

子どもたちは、自分だったらこう言ってほしい……と考え始めました。

その後、「やさしいことば(心地よい言葉)」を考えて、モデル劇をしてみました。

みーちゃん役の子どもたちが、笑顔になった様子を見て、「やりたい!」「やりたい!!」と言って、3~4回ほど子どもたちでモデル劇をしましたよ。

5歳児

特定の好きな友だちがいて、一緒に遊びたい気持ちが膨らんで、時々強引な姿が見られるクラスの様子を子どもたちで考えました。

大好きな友だちみーちゃんと遊びたくてまーちゃんは、ままごとに誘いました。
折り紙をしていたみーちゃんは、出来上がるとまーちゃんと一緒にままごとで遊んでいました。
そこへ、あいちゃんが「**いれて**」と仲間入り。

楽しく遊んでいましたが、まーちゃんは、今度はラキューで遊びたくなってきて、大好きなみーちゃんを強引にラキューに誘います。

でもみーちゃんは、まだままごとで遊びたくって、嫌がります・・・すると・・・**がりっ!!**
「いたい!!」まーちゃんは、みーちゃんのほっぺたをひっかいてしまいました。

子どもたちと考えたことは、

☆まーちゃんは、みーちゃんのこと嫌いなんかあ

もうちょっとで
できるからまって



ねえねえはやく
こっちきてあそぼう

まーちゃん

客観的に見て考えると5歳児の子どもたちは、
お互いが理解し合えることばを考えます。

みーちゃんのこと好きやからふたりで
あそびたかってん

(ことわられたら)違う子とラキューした
らいいやん

断ったら、またがりっ!!される
どっちもわるい、断られたら嫌な気持ち
する

(二人とも)悪くないで、「給食の後で」
って言うたらよかった

お互い嫌な気持ちにならないことばを考えて、モデル劇をしてもらいました。

モデル1 まーちゃん役 「ねえねえラキューしようよ」

みーちゃん役 「いいよ」

見てる子「いいの?」

モデル2 まーちゃんちゃん役 「ラキューしようよ」

みーちゃん役 「まだままごとしたいから、あとでしょう」

まーちゃん役 「いいよ」

見ている子「二人とも嫌な気持ちになってないなあ」

「だってまーちゃん、嫌な顔してへんもんな」

この続きは、またクラスで意見の出し合いが続いたようです。

その後、当番活動が始まり、一緒にゴミ当番のふくろを持ちたい気持ちがぶつかり合う場面がありました。

すると、まわり子どもたちが

「まって、ほかにも持ちたい人いるよ」

「じゃ、明日一緒に持とう」

「それでいい?」

「約束な」

「みんな覚えとこうな」

まわりの友だちも仲裁に入ったり、気持ちを確認したり、クラスでの話し合いがいかされている姿が見られました

